

年頭所感

令和7年（2025年）
一般社団法人
日本内燃力発電設備協会
会長 平野 正樹



令和7年（2025年）の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。
皆様には、日頃から当協会の業務につきまして格別のご理解とご協力を
賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、ウクライナや中東で続く紛争は益々複雑化し、収束の目途が立っておりません。新たな年を機に事態が改善し、関係者間の停戦に向けた合意が進むことを願っております。自然災害に目を向けますと、米国南部では大型ハリケーンが来襲し、多くの被害が発生しました。また、スペインでは近代史上最悪となる洪水による被害が発生しています。日本でも令和6年（2024年）元旦に発生した能登半島地震によって多くの方が被災されました。国内外を問わず災害は、時や場所を選ばず発生することを再認識いたしました。

災害が多発している昨今の状況から見れば、今後はこれまで以上に災害への備えが必要になります。近年は医療機関をはじめ一時の停電も許されない分野が広がっており、災害発生時への備えとして「非常用発電設備」の重要性が益々高まっております。協会会員一同は心を新たに当協会の社会的使命である「自家発電設備」の普及と安全性・信頼性向上に取り組み、社会の安全・安心の向上に貢献して参りたいと思います。

令和7年（2025年）は、米国において激しい大統領選挙戦を勝ち抜いた第2次トランプ政権がスタートします。彼の自国利益最優先の政策が、開かれた経済活動や地球環境問題をはじめとする国際的な課題の解決に、どのような影響を与えるのか不透明です。

日本においては総選挙の結果、与党が過半数割れとなり、困難な政権運営の中で、石破総理がどのような舵取りをしていくのか。不確定要素は多いですが、経済対策や防災対策など公約に掲げた施策の実現に向けて、強いリーダーシップを発揮していただきたいと思っております。

私共の協会は、昭和51年（1976年）に当時の通商産業省の認可を得て「社団法人日本内燃力発電設備協会」として正式に発足して以来、令和8年（2026年）3月18日に創立50周年を迎えます。これまで当協会が無事に活動を継続してこられたのも、ひとえに協会会員の企業・団体の皆様、関係省庁の皆様をはじめ関係各位の協会活動に対するご理解とご協力の賜物と深く感謝しております。

創立50周年を迎えるに当たりましては「記念行事」を開催し、関係者の皆様方と一緒に創立50周年を祝いたいと存じます。記念行事としては記念式典の実施と記念史の発刊を考えており、令和6年（2024年）10月に主要会員企業の皆様の協力を得て「実行委員会」を発足しました。

令和7年（2025年）は、当協会の節目となる創立50周年を迎える準備の年に当たります。「実行委員会」を中心に、万全な形で準備を整えたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が災害のない1年であること、そして皆様が明るい希望をもてる1年を過ごされることを心からお祈り申し上げ、新年の年頭ご挨拶といたします。